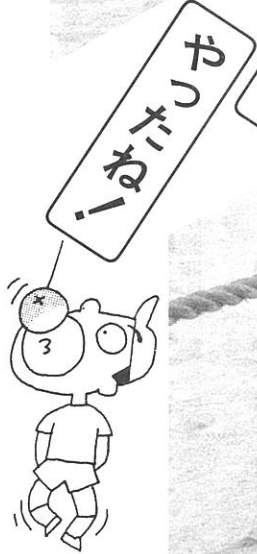




第23回
コミュニティ運動会
平成8年5月19日
開催

大府コミュニティ
ふれあい

編集発行
大府コミュニティ
推進協議会
ふれあい部会
事務局
大府公民館
TEL 48-1007



力を合わせて

大府小学校六年 糸永 雄一

不安定な天気がつづいて、雨が降るかもしれないと心配だったけれど、当日は曇でなんとか中止にならずに楽しい運動会がむかえられました。

このコミュニティ運動会は、修学旅行の二日前だったので、けがをしたくないと思ひ、ひかえめにしておきたかったけれど、やはり優勝がかったブロック対抗リレーでは、さすがに応援に熱がはいりました。このときばかりはみんな立ち上がり一生懸命応援してなんとか良い成績を残して、ぼく達4ブロックは優勝しました。

ぼくは今年6年生で、最後の思い出の運動会が全員の協力で優勝できて、とても嬉しかったです。

これから、この運動会によって、たくさんの方が力を合わせて楽しめる行事であってほしいです。



助けあう

家庭と地域を

創造しよう

全員が力をだし合った
運動会

大府小学校六年 深谷 将司



今年のコミュニティ運動会は、最初のうちは、曇り空でしたが、すこしたつと、空は青空になりとてもよい天気になりました。

運動会では、全種目がもりあがり、前の方にいき、はしゃいでいる人もいるほどでした。そのなかでも一番もりあがったのは、ブロック対抗リレーでした。選手の一人ひとりが全力で走っていました。その中にぼくのお父さんも、参加しました。

ぼくは、出られなかったけれど、友達や、お父さんが走ったので、ドキドキハラハラしながら応援していました。その結果ぼくたちの三ブロックは、見事一位になりました。

応援していた人たちも、自分が勝ったかのように感激していました。

しかし総合は三位でした。来年はもっと力を合せて、一位になってほしいです。

対談会

コミュニティ活動『ゼロからの出発』

私たち一人ひとりがコミュニティメンバーだから

心と心がふれあう

コミュニティを目ざして

福田 哲也さん
(第1ブロック長)

機関紙「ふれあい」について

— 年三回全戸配布していますが、どんな印象をお持ちでしょうか。 —

福田 『広報おおぶ』は見ているが、『ふれあい』は目を通していないし

内容についても知りませんでした。身にかかわる情報がないので、どうしても他人ごとになりやすいですね。

三宅 ふれあい部会員になって初めて意識しました。大府小学校PTA主催の対談会の記事は、とても関心をひきました。それが「ふれあい」に掲載されていることは、あとになって知りました。

阪野 作る側は皆さんに興味をもって

四方 朗さん
(父ちゃんソフト
連絡協議会会長)

コミュニティ活動について

四方 東海市から移ってきてから十年今は父ちゃんソフトの役員をしています。父ちゃんソフトの活動は大府

読んでいただけるよう一生懸命なんだと思いますが、実際にはまだ市民の身近な存在となっていないなどこの席で感じているところです。

— 夏まつりがどんなにぎわいだったとか、運動会でどこが勝ったとか、後追い記事の多い中で、今後の活動の方向性や要望などについて市民のアクションにつながるような紙面作りを心がけていきたいと思っています。 —

「コミュニティって何?」。そんな素朴な疑問から、私たちは案外知られていないコミュニティの活動を今一度、考えてみようと思いこの対談会を企画しました。一人でも多くの方々が自発的に参加できる魅力あるコミュニティとは何かを考えていけたらと思います。

育ちで知り合いも多い妻がほとんど行っていました。ただ近所づきあい

が大切だという意識は持っています。

笠松 今までコミュニティ活動には、いつしかかわってきませんでした。「推進協議会」などと大上段に構えられると、かえって抵抗も多いような気がします。私の知っている多くの組織が、とかく役員さんだけの活動になりがちで、コミュニティも決して例外ではないように思います。

本来地域活動の柱となっていただくべき皆さんが、何か距離を置いた対応をしていらっしやる背景にはどんな問題点があるのでしょうか。

阪野 大府のコミュニティ活動は共長学区から始まりました。近隣からの転入住民が七割を占める実態の中で、住民相互の親和を模索する活動が、父ちゃんソフトボールの組織化につながり、これが全国に波及していったわけです。一方当市では、これを

核として既存の各種団体への呼びかけが功を奏し、推進協議会の結成へと発展していきました。組織の肥大化に伴う弊害として、各種団体へのアプローチがとかく形式的になり、そのツケが一部不満の声として出てきているのかもしれない。この種の活動は運営しだいで活力源とも重荷ともなるので、その点、心していかなければと思います。

間瀬 謙さん
(第3ブロック長)

運動会について

— 大府も都市化が進み、とかく近所づきあいが疎遠になる中で、コミュニティの原点は『皆でひとつの』ことをやることで知り合う』ことにあると思います。そのひとつの方策としてのコミュニティ運動会について、ご意見をお聞きたいと思っています。特にブロック長さんは、選手集めなどでかなりご苦労があったのではありませんか。 —

福田 格別苦労したとは思いません。引き継ぎのとき前の役員さんから、「大変ですよ。」と聞かされていましたが、選手集めは前年の参加者中心にスムーズに決まりましたし、足り

くださいました。ただ近くのマンションに住んでいる方の中には声をかけましたが、参加していただくことができませんでした。どうしてもっと興味をもつて自発的に参加してくれるのか考える必要があるように思います。

間瀬 第一回の説明会とき、出席者が運動会の意義・実施内容の詳細・自分たちの役割り分担などについていろいろ質問をしたが、時間の制約もあり、充分な説明がえられませんでした。「去年も立派にできたんだから、心配しないでやってください」といった感じでした。主催者側にとっては、毎年同じ内容でも、行事担当者は毎年変わるから、充実した説明会にしてほしい。また、メンバー集めでは地域の年齢構成により苦労するケースが多く、人間関係を良くする目的の活動なのに逆の結果が出ているように思います。

笠松 子供会の会長としてひとこと言わせていただければ、各種行事の連絡が何かにつけて遅いようです。

特に、運動会は四月初めにも具体的計画の連絡をもらいたいですね。役員は毎年新しく交代するので、役員会で説明しようにも間に合わず、電話連絡などによらざるを得なくなり、不徹底の原因になっているように思います。

阪野 私は実行委員長を五年経験し

ましたが、その間一度も春にはやりませんでした。やはり引き継ぎも充分ではありませんでしたし、新年度当初に新役員さんにあれこれ押し付けるのは無理があるようです。夏まつりのころから具体的活動に入っていたら、役員さんにもそれなりの外的・内的準備ができ、やらされている意識も緩和されるのではないのでしょうか。



笠松 誠さん
(子供会会長)

—開催時期としては、春と秋どちらが良いと思われますか。—

三宅 選手集めの経験から言えば、春・秋どちらが良いとも言えず、状況は変わらないのでは……。土曜日に開催する案は実現性が薄いのでしょうか。

阪野 開催時期にしても、春では新役員さんのとまどいがありますが、秋では協議会・学校・市民三者の時間的調整が非常に難しいという問題があります。ただ少くとも二ヶ月ぐらいの準備期間が確保できれば、もっと納得のいくものになるのではないのでしょうか。



三宅 良子さん
(大府小学校PTA会計)

これからの
コミュニティについて

—父ちゃんソフト・子供会・その他各種団体は、それぞれ内部で問題を解決し合意の上で進めて行くシステムをもっています。コミュニティは、大組織であるがゆえに、多くの問題を積み残しながらも推進しなければならぬ宿命があるように見えます。それでは一層の充実をはかるためのご提言をここでお願いしたいと思います。—

笠松 我々の年代は子どもの頃から明確なコミュニティ意識を持って成長してきたわけではありません。そのことが組織を運営して行く上でのパワー不足の一因ではないかと考えています。今後この活動の活性化を目指すのであれば、今から子どもたちを各種行事に積極的に参加させ、地域活動の重要性・おもしろさなどを認識させることが大切だと思います。運動会もいろいろご批判はあるようですが、子どもたちは結構楽しんでます。夏まつりも盆踊りで大人が楽しむだけでなく、もっと子どもたちの楽しめる企画を充実させて

もらいたいですね。

福田 資源ごみ回収など子どもが大人を巻き込んだ活動としての良い例もあります。子どもが主導権をもった活動をたくさん作り出したいですね。

阪野 運動会など大きな行事では、できるだけ多くの人たちの理解と協力が不可欠であるのは言うまでもありません。反面強硬にリードしなければ運営できない点もあります。ですからコミュニティの会長はじめ、役員の皆さんの活動を担う人たちは、形式だけにとらわれることのないよう、機会あるごとに活動のポリシーについて熱く語るべきではないでしょうか。

間瀬 部外者の意見はとかく過激になりがちですが、地域の和を大切に思う気持ちの表われだと思います。今日の私たちの意見が前向きにとらえられるよう希望します。



阪野 隆さん
(市議会議員)
(コミュニティOB)

—本日は卒直なご意見をいただきありがとうございます。今後ともコミュニティ活動の健全な発展のため、ご尽力くださるようよろしくお願いします。—

おのこの人

「ふるさと大好き人間！」
神谷昭勝さん
— 中央町六 —

今回、このコーナーに登場していたのは、中央町にお住まいの神谷昭勝さんです。神谷さんは、昭和六十年から平成三年までの七年にわたり、大府コミュニティの事務局長を務められ、今年で十三年目のコミュニティの基礎を作られた方です。大府駅前の地藏院の隣、フラワーポットにいつも美しい花を咲かせてみえる神谷さんの会社にお邪魔し、お話を伺いました。

運動会や夏まつりに代表されるコミュニティの活動について、その胎動期の苦労話をきかせてくださるようお願いしたところ「試行錯誤の数年間、色々な人達からの意見をとり入れ、組織を一步一步充実させていったことは、苦労というよりむしろ楽しかったです。」との答が返ってきました。皆が楽しめるものを創って、地域の活性化を図りたいという、コミュニティ創成期のスタッフの皆さんの原動力を垣間見た気がしました。神谷さんはJCの活動にも積極的に取り組まれた方で「創ることが好きで、自分はJCに育てられたと思う。他の仲間たちのすばらしいものを取り込み、人とかかわり



大府ライオンズクラブのメンバーとして、フィリピン、カナヤン村へ「寺小屋」を贈った神谷さん(96年2月)

の中で自分が変わらなきゃならないと思ってきた。行動あるのみで、自分には殻がないから前に進めたんだと思う。殻を作ってしまった駄目、守りにはいつたら駄目だと思う。変わるから成長できる。JCがなかったら今の自分はないと思う。」と力強く語ってくださいました。大府小学校や大府東高校のPTA会長も歴任された神谷さんは、子どもたちにも、生きていく上で大切なものは「闘争心」だと言ってみえました。

また、一方で神谷さんは、ふるさとを知り、見直し、愛することの大切さ

を実感しておられ、そのひとつの現れとして、事務局長時代五年にわたって「ふるさと道親子歩け歩け大会」を実現されました。また、今も続けておられるのが、大府祭ばやし、山車の復活運動です。笛の音色調査から始まり、大府学区で三つに分かれていた祭を一つにまとめ、その伝統を保存伝承していく努力を重ねていらっしやいます。

やさしい笛の音に耳を傾けてみえる神谷さんの姿を想像し、そのお人柄の暖かさを感じました。また、ふるさとの自然破壊にも心を傷めておられ、ホテルやトンボの住める環境を取り戻すためには、とにかくいったん原点に戻る必要があると力説してみえました。最近、新池の浄化運動が実を結んでカイツブリが巣を作ったのをみつけて「あそこを通るのがとても楽しみ」と少年のような目で話していました。

初めてお会いした神谷さんでしたが、その人間としてのスケールの大きさと、その奥に秘めたふるさとを愛する心やさしさに触れ、感激ひとしきり。今後も大府のために若者たちを引っ張る力になっていただけるものと確信しました。

— T —

JCとは

青年会議所の略称です。大府市、東浦町で事業経営をすすめている、四十才以下の男・女、青年たちの会です。現在会員四十八名、理事長山下俊行さんです。

夏はノヤッぱり夏まつり

◎八月三日(土)・四日(日)

◎JR大府駅前通りを中心に

だしもの、イベント!

多くの方々が楽しみました。



あとがき

六月九日、新池に放流されたヘイケボタルが、二十七日夜、「ボタルの光」第一号を見せてくれました。

コミュニティふるさと部会、蜻蛉の会のみなさんの、一年がかりの努力が小さく実りました。

まわりの池をもっときれいに!